あなたはやれる 挑戦し続けて

アクサ損害保険社長 佐伯美奈子さん

さえき・みなこ　1984年富士銀行（現・みずほ銀行）入行。アメリカンホーム医療・損害保険などの役員を経て2021年からアクサ損害保険社長兼ＣＥＯ。

アクサ損害保険の佐伯美奈子社長(58)は、日本の銀行を辞めて留学し、帰国後に別の銀行の支店長になりました。34歳の若さでした。

帰国を決めた時、米国系の銀行が日本で女性支店長を募集しており、採用されました。男性が多い支店長のなかにいると「若い女性のお手並み拝見」という雰囲気でした。

管理職は「知らない」と言ってはいけないと思っていました。でも、米国のメンバーから「知らないことは言って。聞かれたら伝えるから、判断して」と。知ったかぶりしちゃいけない、頼っていい、むしろそれが大事と教えてもらいました。

数年後、別の会社から役員の誘いがありました。「無理かな」と答えると、声をかけてくれた米国人女性が言うのです。「あなたならやれると思うから推薦している」。それからは、「経験がなかったら難しいと思う」と誰かに言われた場合でも、「私には経験じゃないものを期待されているんだから大丈夫」と自分に言い聞かせるようになりました。

「ハードルが高い」と感じるのは、「失敗したらいけない」と思っているからでしょう。もしうまくいかなくても、チャレンジしていない人と比べたら、失敗から学んだ分だけ成長しています。チャレンジをしていれば、面白さはどこかで感じる。そういう考え方を伝えていくのが大事だと思っています。

長く男女の置かれる状況が違っていた中の変化ですから、女性の管理職を増やすには環境を整える必要があります。高い下駄だって履かなきゃいけない。大事なことは、その下駄でうまく歩けるようにサポートすること。高い下駄は歩きづらいし、つかめるものがなければ倒れやすい。下駄だけ履かせて、「どうぞ」という会社が多いのですが、それは違うと思います。

「自分はこれができない」「あれが弱い」と言う人はたくさんいますが、強みを言える人は少ない。ダイバーシティー（多様性）の良いところは、いろんな人がいることを通じて、「こんなことでも強みになるんだな。ならば、自分のこれも強みじゃない？」と自己認識を高めていけるところです。

これからは、わざわざ「女性」管理職と言う時代ではなくなるでしょう。でも、今はまだ少ないのが現実。積極的にチャレンジができるように、私たちも女性や若手を対象にした研修を進めています。在宅勤務などの働き方改革は、女性管理職だけではなく、男性を含めた会社全体の活性化につながることは間違いありません。　（聞き手・石田貴子）

2022年8月28日　朝日新聞掲載
朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。
承諾番号：22-2625